

北方圏学術情報センター年報の創刊のことば

北方圏学術情報センター センター長 小室 晴 陽

今日、大学と地域社会との有機的連携が求められていますが、北方圏学術情報センターは、その理念やコンセプトを生かしながら「北方圏に生きる人間の生活の質の向上」に関する調査研究を多面的な視点に立って展開し、これまで数多くの研究成果を発表してきたところです。それは、人間福祉学部に付設されていた「北方圏生活福祉研究所」、及び生涯学習システム学部に付設された「生涯学習研究所」のそれぞれの研究機能と連動する形で、お互いに切磋琢磨をしてきた歴史でもあります。

そして、より効果的で効率的な総合的研究センターへと発展していくことが学内外から求められ、両研究所が培ってきた研究財産と研究機能を発展的に統合し、より多角的多層的な視点に立った研究機関として北方圏学術情報センターはさらにステップアップ致しました。その意味では、「北方圏生活福祉研究所」の研究の伝統である生活文化や福祉社会などに関して新たな研究チャレンジが期待されますし、「生涯学習研究所」の研究の伝統である地域文化や生涯学習社会などについても新たな研究チャレンジが期待されます。或いは、伝統的研究の融合によって、学際的なテーマである「共生社会」や「人間環境と健康」など、新たな研究成果が期待されるものと考えております。

さて、新たなステップを踏み出した北方圏学術情報センターの年報第1号を、ここに発刊することができ、投稿いただいた各位に心からお礼申し上げます。本年報に掲載されている研究論文及び研究報告や研究作品は、北方圏学術情報センターのこれからの針路を予感させるような多方面からの研究内容であり、しかも、その根底には「北方圏に生きる人間の生活の質の向上」の理念が生かされているものばかりです。今後、号を重ねる中で、この北方圏学術情報センター年報が益々発展充実し、豊かな研究の花と実が溢れることをご期待し、創刊のことばと致します。